

北大病院心エコー室で検査を受けた患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に関する情報)

北海道大学大学院 循環病態内科学では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、北大病院において、通常の診療で得られる診療記録や検査結果を分析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号)の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

[研究課題名] 心エコー法によるリザーバ期左房硬さ評価法の非侵襲的評価法の確立

[研究機関・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属]

辻永 真吾 (北海道大学大学院医学研究院循環病態内科学 特任助教)

[研究の目的]

社会の高齢化とともに、心不全患者さんや心房細動患者さんの数は増加を続けており、今後、ますます増えることが予想されています。これらの病態には左房機能障害が関与していると考えられています。左房機能障害の中でも、左房硬さの増大を早期に検出することは、心不全が悪化する危険性の高い患者さんや心房細動が発生しやすい患者さんを検出するのに有用と考えられています。しかし、左房硬さを非侵襲的な心エコー検査で検出する方法は確立されておらず、新たな手法の考案が望まれます。そこで、私たちは、心エコー検査を用いて、肺静脈血流速度波形と左房の心筋伸縮の程度や左房容積を詳細に分析することにより、左房硬さを評価する手法を考案したいと考えました。心エコー検査で左房硬さを行えるようになれば、心不全や心房細動の危険が迫った心疾患患者さんを検出でき、心疾患患者さんの治療の質の向上につながる可能性があります。

[研究の方法]

●対象となる方

2013年1月から2020年12月までの間に、北海道大学病院で心エコー検査と心臓カテーテル検査の両方を受けた患者さん

●利用するカルテ情報

1. 診療記録から、年齢、性別、身長、体重、血圧、診断名、病歴、身体所見、血液生化学的検査結果、血漿中の脳性ナトリウム利尿ペプチド (BNP) 濃度、N 末端プロ B 型ナトリウム利尿ペプチド (NT-proBNP) 濃度、臨床経過ならびに治療内容を調査させていただきます。
2. 入院中の心エコー検査記録から、一般的心エコー指標に関する情報、肺静脈血流速度波形の情報および左房容積を調査させていただきます。また、心臓カテーテル検査記録から、肺動脈楔入圧の情報を調査させていただきます。

[研究実施期間] 病院長による実施許可日～2022年3月31日

[個人情報の取り扱い]

この研究に関して、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

本研究の実施にあたり、研究に利用する患者さんの情報に関しては、研究担当者が北海道大学病院内で診療記録や心エコー検査記録を収集した後、お名前、ご住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果を学会や学術雑誌などに発表する予定ですが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。

[連絡先]

札幌市北区北 12 条西 5 丁目

北海道大学保健科学研究院・講師 岡田 一範（連絡担当者）

電話 011-706-3730, FAX 011-706-3730